



南葵音楽文庫ミニレクチャー

第一次大戦の影

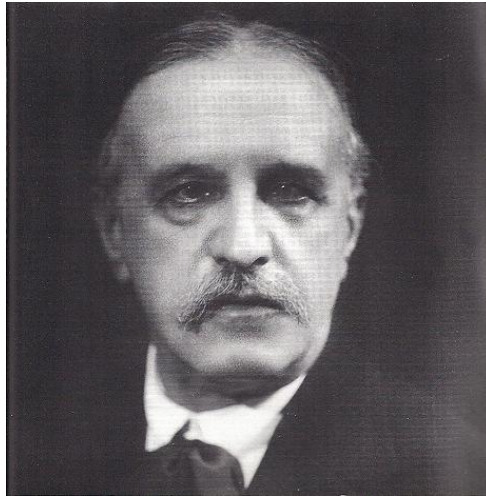
～ヴィエルヌの音楽を聴く～

近藤秀樹

2019年9月21日(土) 11:00

南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500



ルイ・ヴィエルヌ (1915年)

https://fr.m.wikipedia.org/wiki/Fichier:Louis_Vierne_en_1915.png

1. ルイ・ヴィエルヌ (Louis Vierne 1870-1937)

フランスの作曲家、オルガニスト。

- フランク (César Franck 1822-1890) とヴィドール (Charles-Marie Widor 1844-1937) に学ぶ。
- 幼少より眼が不自由(先天性な白内障)。最終的には緑内障により失明。晩年は点字で作曲。
- ノートルダム大聖堂のオルガニストをつとめる (1900-37年)。
- 1912年、スコラ・カントルムのオルガン科教授に就任。多数の弟子を育てる。
- 作品: オルガン独奏曲多数 (6つのオルガン交響曲を含む)。

室内楽曲、ピアノ独奏曲、歌曲、宗教曲にも力量を発揮。近年、再評価が進む。

ノートルダム大聖堂でオルガンを演奏するヴィエルヌ。

<http://creacuervos.com/arte/notre-dame-su-legado-cultural-continua/>



ヴィエルヌとスナール社

- ・スナール室内楽シリーズには以下のヴィエルヌの作品が含まれている。

Ensemble		
	《ピアノ五重奏曲》 <i>Quintette</i>	1924 年第 1 期
Piano		
	《孤独》 <i>Solitude</i>	1925 年第 2 期
Chant et piano		
	《ボードレールの 5 つの詩》 <i>Cinq poèmes de Charles Baudelaire</i>	1924 年第 1 期

*参考: 南葵音楽文庫所蔵の、他のヴィエルヌの作品

《チェロとピアノのための 2 つの小品》 (<i>Deux pièces pour violoncelle et piano</i>) 作品 5 (1894-95 年作曲)*
1. 夕暮れ <i>Soir</i>
2. 伝説曲 <i>Légende</i>
《チェロソナタ》ホ短調 作品 27 (1910 年作曲)*
《オルガン交響曲》第 5 番 イ短調 作品 47 (1924 年作曲)
* はホルマン・コレクション

眼の治療とスイス

- ・1916 年 1 月、緑内障が悪化し、眼の治療のためスイス・ローザンヌへ。
- ・1918 年 12 月まで同地にとどまり、Dr. Eperon の治療を受ける。
- ・《ピアノ五重奏曲》、ピアノ曲《孤独》、歌曲集《ボードレールの 5 つの詩》はこの時期にローザンヌで作曲された。

2. 《ピアノ五重奏曲》作品 42

ヴィエルヌの室内楽曲の代表作。

- ・1917 年から 18 年にかけて作曲。
- ・第一次大戦で 1917 年に亡くなった息子ジャック Jacques の思い出に捧げられた。

右: ヴィエルヌ《ピアノ五重奏曲》手稿譜の表紙。

下: ジャック・ヴィエルヌ。写真は1917年5月10日、エーヌの戦線に出発する前に撮影されたもの。



https://fr.m.wikipedia.org/wiki/Fichier:Jacques_Vierne_en_1917.png

[https://fr.wikipedia.org/wiki/Quintette_pour_piano_et_cordes_\(Vierne\)#/media/Fichier:Louis_Vierne_-_Quintette_manuscrit_page_de_titre.png](https://fr.wikipedia.org/wiki/Quintette_pour_piano_et_cordes_(Vierne)#/media/Fichier:Louis_Vierne_-_Quintette_manuscrit_page_de_titre.png)

- 第1楽章: Poco lento, moderato
- 第2楽章: Larghetto sostenuto
- 第3楽章: Maestoso; Allegro risoluto

- 初演: 1919年6月上旬にトノンにて、内輪での初演が行われる。
公的な初演は1920年4月23日に、ジュネーヴで。ピアノは作曲者自身。
パリでの初演は1921年7月16日。ピアノはナディア・ブーランジェ。
- 出版: 1924年に、スナール室内楽シリーズ「アンサンブル」編の一環として出版。

第1楽章

- 不穏で不安なイントロダクション→第1主題
- 対照的な2つの主題
- 安らぎに満ちた終結部: 八短調から八長調へ



▲ ヴィエルヌ《ピアノ五重奏曲》第1楽章冒頭



▲ ヴィエルヌ《ピアノ五重奏曲》第1楽章第2主題(チェロのパート)

3. ピアノ曲《孤独》作品44

ヴィエルヌのピアノ曲の中でもっとも幻想的な作品。

- 1918年に作曲。
- 第一次大戦で戦死した弟ルネ（オルガニスト）に献呈。



ルネ・ヴィエルヌ (René Vierne 1878-1918) は、兄のルイに学んだあと、パリ音楽院でアレクサンドル・ギルマン (Alexandre Guilmant 1837-1911) に師事した。オルガンとハルモニウムのために、少数ながら多様な作品を遺した。また、オルガンとハルモニウムの教則本も著している。1914年に召集され、1918年5月29日に砲撃により亡くなった。

<http://www.publimuses.com/en/composers.html>

- 出版: 1925年に、スナール室内楽シリーズの一環として。
- 初演: 1918年12月13日にスイス・ローザンヌで。
ピアノ独奏はホセ・イトウルビ (José Iturbi 1895-1980)。
パリ初演は翌1919年2月12日に、やはりイトウルビのピアノで。

ホセ・イトゥルビはスペイン出身のピアニスト、指揮者。1918年から22年までジュネーヴ音楽院でピアノを教えた。イトゥルビがヴィエルヌ《孤独》の初演を行ったのはこの時期。

のちにヴィエルヌは、ピアノ独奏と管弦楽のための《詩曲》作品50（1925年）を作曲し、イトゥルビに献呈。1926年にイトゥルビのピアノ独奏により初演された。

https://en.wikipedia.org/wiki/Jos%C3%A9_Iturbi#/media/File:Joseiturbi.jpg



曲の構成とタイトル

- ・全4曲。各曲にはタイトルとエピグラフがついている。
- ・強迫観念、眠れない夜、幽霊、死の舞踏……
 - ① ロマン派的な怪奇趣味の音楽(←リスト、ベルリオーズの影響)
 - ② 戦争の恐怖の表現(戦争が終結しても、恐ろしい記憶はずっと残る?)

孤独

1. 憑いて離れぬもの

「喪われた者たちの思い出が、孤独な男に憑いて離れない。」

2. 眠れぬ夜

「おお、苦しみよ、見えざる輩(ともがら)よ、お前は倦むことなく目覚めている、魂を喪に服させ心を引き裂く者の傍らで。」

3. 幻覚

「下がれ、血塗られた幽霊よ、お前が虚しい影でしかないのなら!…」

4. 幽霊たちの奇怪な輪舞

「生者たちの喜びのこだまに眠りを妨げられて、死者たちは起き上がり、月明りのもとで彼らもまた踊る。」

ローザンヌ、1918年6月～7月

▲ 《孤独》の楽譜では、曲に先立ち、上記のようにタイトルとエピグラフが掲げられている。

第一次世界大戦と“死の舞踏”

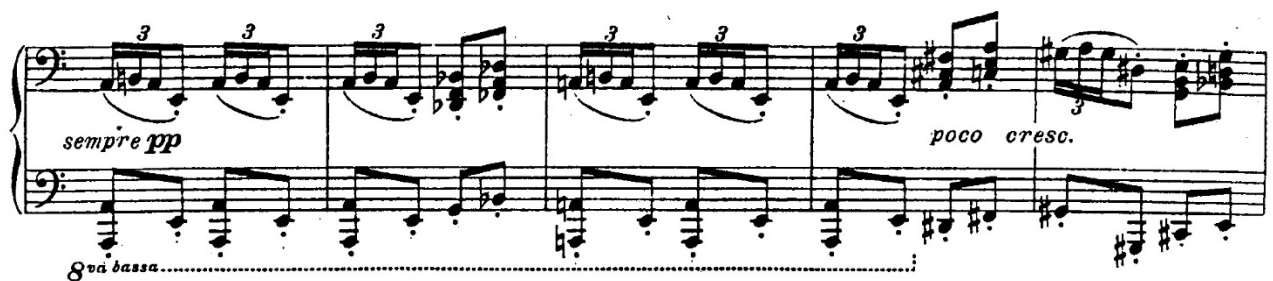
- 第4曲〈幽霊たちの奇怪な輪舞〉……20世紀版「死の舞踏」(?)
- 死の舞踏 Danse Macabre
 - 中世末期のペスト流行をきっかけに成立。
 - 宗教劇→壁画→版画→詩、絵画、音楽
- 戦場=死の舞踏?



▲ ヴォルゲムート
「死の舞踏」(1493年)



▲ ジャン・ヴィロル『死の舞踏』。ヴィロルはリモージュ出身の画家で、第一次大戦で塹壕戦を体験。その悲惨さを版画集『死の舞踏』で描いた。
<https://1418memoires.com/2015/08/29/jean-virolle-la-mort-a-distance/>



▲ ヴィエルヌ 《孤独》第4曲 輪舞(ロンド)のテーマ

おわりに

ヴィエルヌの作品を介してスナール室内楽シリーズに落ちる、第一次大戦の影